

【全体概要】

福岡県の夏秋なすは、夏期の複合品目の一つとして導入が進められているが、高齢化と労力不足により、省力化技術が求められている。また、施設栽培なすについては、栽培が長期にわたるため、草勢維持管理と出荷の安定が求められている。そこで、緩効性肥料を用いた施肥体系や整枝方法の改善等の省力技術の導入による、福岡県産なすの生産力の向上を図る。

新品種・新技術等の概要

○品種「筑陽」における「一芽どり整枝法」と「施肥体系」の実証(R2)



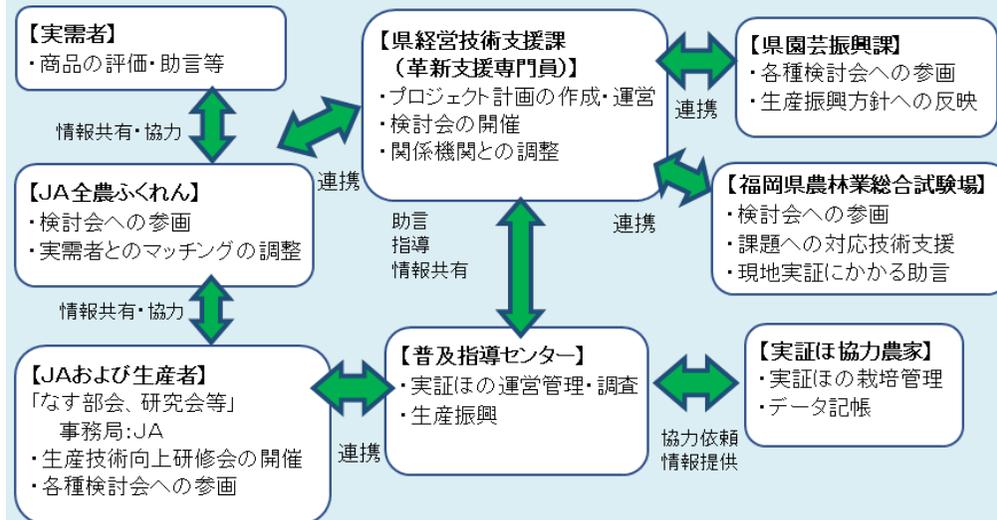
「一芽どり整枝法」を導入した生産体系

「筑陽」における「一芽どり整枝法」は、草勢を適正に維持でき、緩効性肥料を用いた「施肥体系」は、追肥作業の省力化を図れた。

○県内8カ所での栽培実証試験(R3)

県内7カ所において基肥一発肥料の施肥体系試験、1か所にて日射比例式かん水制御を用いた実証試験を実施し、生育や収量等を調査。

実施体制図



主な取組内容

※R2実績

【実証ほ設置】(8普及センター、8カ所)

【事業検討会・設計・成績検討会】(計5回)

実証ほの設計、成績を検討。

【プロジェクト会議、現地検討会】(6月～7月、3回)

実証ほ場の実施状況の確認および現地検討会を開催。

【実需者との意見交換会】(9月、1回)

- ・産地における生産情報の提供と実需者の販売ニーズの調査を実施
- ・現地検討会にて、産地と実需者間で生産販売の情報共有。

課題と今後の対応

【1年目の実証結果】

- ①「一芽どり整枝法」は品種「筑陽」の草勢を適正に維持できる。
- ②緩効性肥料を用いた施肥体系については、追肥作業の省力化が図れる。一方で、初期生育がやや緩慢になるため、施肥体系の改良が必要。

【2年目の主な取組】

- ①改良した施肥体系試験の実施(継続)。
- ②実需者との意見交換会・普及検討会を実施。